

**ブロック協議会基本方針・地域総合戦略・年間事業フレーム
統一ルール
(ブロック会長用)**

1.全体共通事項

(1)統一文言表

捉える(NG:とらえる)	ために(NG:為に)	繋がる(NG:つながる)
こと(NG:事)	できる(NG:出来る)	私たち(NG:私達)
様々(NG:さまざま)	今(NG:いま)	子ども(NG:子供)
人々(NG:人びと)	取り組み(NG:取組、取組 み)	さらに(NG:更に)
人財(NG:人材)	持つ(NG:もつ、もって)	中(NG:なか、〇〇するな かで)
ある(NG:有る)	ウイルス(NG:ウィルス)	まち(NG:町、街)
いかす(NG:生かす、活 かす)	いただく(NG:頂く、頂き)	一人(NG:ひとり)
一人ひとり(NG:一人一 人)	わかる(NG:分かる)	あり方(NG:在り方)
創る(NG:つくる)	当たり前(NG:あたりまえ)	目指し(NG:めざし)
見られ(NG:みられ)	あふれる(NG:溢れる)	続ける(NG:つづける)
いたす(NG:致す)	まいる(NG:参る)	及び(NG:および)
及び(NG:および)	見える(NG:みえる)	行う(NG:おこなう)
気付く(NG:きづく、気づ く)	生まれ(NG:うまれ)	

※1:原則として英数字や記号は半角を使用すること。

(例:JC、LOM、2025 年、「」、..、()、-、_など)

※2:「うえで」の使用について

「〇〇したうえで」…助詞・補助動詞の場合は平仮名

(例:…を理解したうえで…)

「〇〇する上で」…上下を表す場合は漢字

(例:…を目指す上で・上からの…)

※3:「〇〇(団体名などの名称)と共に△△(行動)をする」…を使用する場合は漢字

(例:…を行政と共に協力し…)

「〇〇とともに」…を使用する場合はひらがな

(例:…を進めるとともに…)

※4:スペースを使用する場合には半角スペースを使用すること。

※5:ここで指定していない文言については、会頭所信の用法に沿って使用すること。

(2)統一ルール

- 1)「」の使用法…「」は原則使わない。
- 2)・の使用法…・(中黒)は原則使わない。ただし、会頭所信並びに基本資料(基本理念・方針・事業計画・グループ構成等)に使用されている文言の場合は除く。
(例:お祭り・イベント、安心・安全、設営・対応・推進など)
- 3)青年会議所を指す場合は、JC の語を使用する。
- 4) **JCI 日本は使用しない**。日本青年会議所を指す場合は、**日本青年会議所**、**日本 JC** または **JCI Japan** の語を使用する。(日本 JC 公認プログラム、日本 JC 日口友好の会、JCI Japan グローバルユース等)
- 5)会員会議所を指す場合は、LOM(×会員会議所 ×会員)の語を使用する。
- 6)各地会員会議所を指す場合は、各 LOM(×各地会員会議所)の語を使用する。
- 7)24,000 名の日本の青年会議所会員全員を指す場合には、「私たち」、もしくは「メンバー」の語を使用する。原則、主語として使用する場合は「私たち」、それ以外で使用する場合は「メンバー」とする。

(3)統一ルール補足

本統一ルールを守ることも重要ですが、協議をする際、些末なルール統一との違いに捉われすぎることなく、予定する運動の本質について協議する様にしてください。

2.ブロック協議会基本方針

※1 [原則]フォントは、MS P ゴシック 10 ポイントとする。

(1)ブロック協議会の理想の未来

- 1)基本方針がブロック協議会のどのような未来にどうつながるかを記載する。最後の一文は〇〇となっている未来を創造します。と統一すること。

(2)ブロック協議会の役割

- 1) LOM や本会、地区との関連のなかで、ブロック協議会としてどのような役割を果たしていくかを記載すること。(全 3 行)
例)〇〇は〇〇であり(課題)、〇〇する必要があります(必要性)。

(3)ブロック連携事業(政策手法)

- 1)ブロック連携事業に関する政策手法を記載すること。

(4)ブロック独自の事業

- 1)ブロック協議会独自の職務分掌を記載し、目的、手法(2 つ以上可能)、得られる効果の 3 つの要素で記載すること。
例)〇〇のために、〇〇することで/〇〇となることで、〇〇します。

(5)ブロックによる LOM 支援の実施内容

1)ブロック協議会が LOM に対して支援できる手法を箇条書きで記載すること。

(6)ファイル名は、00_kihonhoushin_●●bloc_ver.○に設定すること。

例)01_kihonhoushin_hokkaidobloc_ver.01

3.ブロック協議会地域総合戦略

ブロック協議会基本方針に基づき、各ブロック協議会で行う内容をより具体的にすることを主旨とする。

※1 右端の文字が枠からはみ出ている場合は改行し、文章全体が見られるよう、行の幅を調整すること。

※2[原則]タイトル以外は MS P ゴシック 10.5 ポイントとする。

※3 英数字及び記号(「」や(),-など)は半角とする。

※4 ページをまたぐ際は、小題(■○○)ごとで区切り、改ページすること。ページレイアウト→改ページ→改ページの挿入で改ページが可能。

※5 ファイル→印刷→すべての列を 1 ページに印刷 でプレビューを確認し、体裁を確認すること。

(1)地域が描く未来について

1)ブロック会長として描く地域の未来(長期的ビジョン)を 300～400 字で記載すること。

2)2025 年度の方角性を 300～400 字で記載すること。

※いずれも現状の地域が抱える課題や背景を考察し、その内容から長期的な目線で叶えたい理想を記載。

(2)基本方針

1)1 行目は「やること」、2 行目は「なりたい姿」を記載し、その下部に基本理念の解説を記載すること。

2)事業計画については委員会数を想定して、それぞれ委員会の目指すべきゴールを記載すること

(3)ブロック協議会の役割

1) 総合調整機関としての日本 JC の体制を確立するために、ブロック協議会の役割を記載すること。

(4)ブロックの連携事業(政策手法)

1)連携事業に対して、本会の方針、ブロック協議会での実施内容、実施時期を記載すること。

(5)ブロック独自の事業

各運動事業名と事業手法を記載し、以下を具体的に記載すること。

1)背景

2)目的

3)推進体制

4)施策の詳細

(6)グラフ

1.1 ブロック協議会内のLOMの状況

■ブロック協議会内のLOM期首会員数の推移（単位：名 半角数字）

LOM名	2020年	2021年	2022年	2023年
能代JC	30名	28名	23名	22名
秋田JC	71名	62名	51名	52名
大館JC	21名	22名	17名	13名
湯沢JC	23名	23名	24名	22名
由利本荘JC	21名	20名	16名	17名
大曲JC	31名	24名	20名	20名
横手JC	25名	25名	24名	25名
鹿角JC	26名	21名	17名	13名

秋田ブロック協議会内の8LOM中3LOMが前年度期首会員数を3年連続で減らし続けるという結果が数値から考察できます。また、2020年度と2023年度を比較すると会員減少率は19%であり、さらに、半数のLOMが会員数20名以下の小規模LOMとなっています。

■ブロック協議会内のLOM会員拡大実績（単位：名 半角数字）

LOM名	2020年	2021年	2022年	2023年
能代JC	2名	3名	1名	0名
秋田JC	7名	7名	2名	3名
大館JC	2名	5名	2名	2名
湯沢JC	2名	1名	9名	2名
由利本荘JC	4名	2名	2名	2名

・グラフ表で数字の後に単位の記載必須。

（例）JCI 台北、JCI 大曲という記載、正→台北 JC、大曲 JC 表記とする。

(7)更新履歴

1)修正した際は、冒頭右上の ver.の数字を更新すること。

(8)ファイル名は、00_sougousenryaku_●●bloc_ver.○に設定すること。

例)02_sougousenryaku_tohokubloc_ver.01

4.ブロック協議会年間事業フレーム

※1 連携する場合は、上下などを合体させること。

※2 [原則]フォント「概要・手段」に該当する部分は MS P ゴシック 9 ポイント、
内容部分は 9 ポイントとする。上手く収まらない場合は、例外を認める。

(例:フォーラム実施はフォーラムが途中で切れるときは文字サイズ 8 ポイント)

- (1)「○○▲▲」のように文章中で 1 行の場合は「・」を使用し、2 行にまたがる場合は、「・」は使用せず体裁を整えて中央揃えとすること。
- (2)2 行にわたる場合は、文章の切れ目を考えて記載すること。助詞は必ず前の後に接続させ、助詞が改行の先頭になったり、助詞が分割されたりしないようにすること。**2 行以上になってしまう場合は、フォントサイズを 1 ポイント小さくすること。**
- (3)言葉は区切り良いところで改行する。
- (4)改行できる箇所が複数ある場合は、1 行目と 2 行目になるべく均等の文字数になるように改行する。
- (5)「本年度からの引継」「次年度への引継」などの表記→「引継」に統一。
- (6)「事業の検証」などの表記→「検証」に統一し、簡潔な表記を心がけること。
- (7)議案を審議する月には、「企画・立案」と記載する。
※協議・精査・協議・審議と分けて記載せず、ひとまとめにして「企画・立案」とすること。
- (8)事業名、調査・検証名、運動名は、左詰めで記載をすること。
- (9)フォーラム実施など、1 つの単語として途中で切ることができない単語に限り、ポイントを変更し記載することを認める。
- (10)企画・立案・引継・検証など二字熟語を含めて文章や文字の途中で切れないよう、**手前で改行を入れること**。改行を入れる際は(Alt+Enter)による改行としてください。
- (11)共通事項及び議案のない手段に関しては記載不要
- (12)各事業の報告は、検証→報告(報告議案上程予定月)→引継の順番にする
- (13)行の高さ 33 に設定(固定)、2 行以上で収まらない場合は 7 ポイントまで下げる。
- (14)ファイル名は 00_frame_●●bloc_ver.○に設定すること。

例)03_frame_kantobloc_ver.01

■各会議・大会・総会でのルール

1)京都会議のフォーラム・セミナー

- 前 11 月・前 12 月が企画・立案の審議、
- 1 月の 1、2 週目フォーラム準備
- 1 月の 3、4 週目がフォーラム実施、
- 2 月が検証、3 月が報告

2)総会のフォーラム・セミナー

- 1 月が企画・立案の審議、
- 2 月、3 月の 2 週目までがフォーラム準備
- 3 月後半がフォーラム実施
- 4 月が検証、5 月が報告

3)サマコンのフォーラム・セミナー

4 月、5 月が企画・立案で審議
6 月、7 月前半がフォーラム準備
7 月 3 週目がフォーラム実施
8 月が検証、9 月が報告

4)全国大会のフォーラム・セミナー

6 月、7 月が企画・立案の審議、
8 月、9 月がフォーラム準備、
10 月 1 週目がフォーラム実施、
10 月後半が検証、11 月が報告

■年間推進事業、対内外事業

予定者(前 09 月)に引継、調査、検証(新規の場合は、調査・研究)

予定者(前 12 月)に企画・立案

2024 年度 1 月～6 月前半まで推進、6 月中盤から 7 月中盤にかけて中間検証し、

7 月後半(サマーコンファレンス)で成果の発信

8 月検証、9 月前半が引継、9 月から 10 月まで適時実施、11 月報告、12 月引継

■上程資料一覧

1.ブロック協議会基本方針(協議)

上程名 : 00_kihonhoushin_●●bloc_ver.○

2.ブロック協議会地域総合戦略(協議)

上程名 : 00_sougousenryaku_●●bloc_ver.○

3.ブロック協議会年間事業フレーム

上程名 : 00.frame_●●bloc_ver.○